

令和3年11月29日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
国際協力NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：国際協力キャリアフェア2021

企画実施概要：①企画内容：国際協力分野でのキャリアを考えている来場者に対し、求められる人材や職種、待遇面や情報入手の方法など、NGOへの就職を目指す上で必要とされる知識や心構えなどについて情報提供および、相談対応を実施する。

②目的：国際協力分野でのキャリアに関する具体的な情報の提供および相談を実施することで、国際協力およびNGOに対する理解促進をはかる。

③対象：国際協力業界での就職を考えている大学生、大学院生、社会人

セミナー：「NGOで働くとは」参加者約107名

個別相談：1-4人でグループ相談60分間×7回 計25名。

2 出張者氏名

山田直樹

3 依頼元／主催団体名

株式会社国際開発ジャーナル社

4 実施予定日時

令和3年11月27日（土）

10:00～18:00

5 実施場所

オンライン（zoom）

6 実施報告

＜参加者の声＞

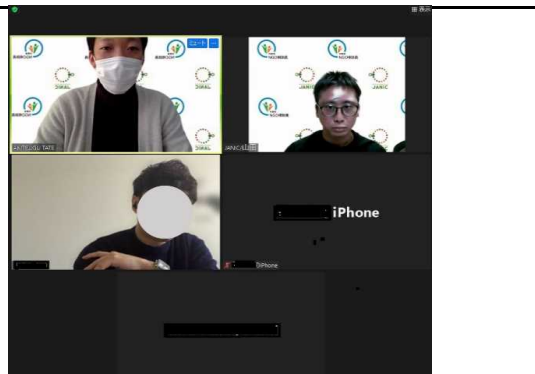
社会人：NGOの役割や職場環境、待遇など参考になりました。キャリア形成や自身の生活も考えながら、今後NGOへの就職も検討していきたい

学生：現在勉強している専攻が今後NGOで働く上でも活かせる内容だと知れた事は良かった。国際協力業界で働きたいので、NGOも視野に置いて検討します。

7 写真



個別相談の風景（※参加者の顔はプライバシー観点から削除しています。）



個別相談の風景（※参加者の顔はプライバシー観点から削除しています。）

（写真1）

（写真2）

以上

令和3年12月2日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
難民を助ける会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名： NGOの活動を知る（オンライン開催）
- 企画実施概要： ①実施内容
小学生がNGOの活動を知る。AARの活動、地雷・不発弾対策を知る。
- ②対象者および参加人数
小学6年生：12名、担任教員：3名

- 2 出張者氏名 紺野誠二
- 3 依頼元／主催団体名 ノートルダム清心女子大学附属小学校（岡山県岡山市）
- 4 実施予定日時 2021年11月26日 （金） 14:30 ～ 15:30
- 5 実施場所 オンライン
- 6 実施報告 ・AARの活動について知ることができた、地雷の問題や地雷の被害に
合わないための教育について知ることができたなどの感想があった。
ほか、実施後、一人ひとりに行ったアンケートの詳細については、先方
で取りまとめ中のため、12/2現在では報告不可となっている。

7 写真

	(写真2)
Zoomで講演を行う紺野	

(写真1)

(写真2)

以上

令和3年12月1日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名: パレスチナ刺繍プロジェクトチーム勉強会 ゲスト講師

企画実施概要: ①実施内容
主催大学の学生によって形成された「パレスチナ刺繍プロジェクトチーム」のメンバーに対して、パレスチナの現地情勢、女性の雇用状況、刺繍文化を伝えるために、当団体職員を講師として派遣する。

②対象者および参加人数
主催大学の学生によるパレスチナ刺繍プロジェクトチームのメンバー8名

2 出張者氏名 広報・FRグループマネージャー 並木 麻衣

3 依頼元／主催団体名 フェリス女学院大学 ボランティアセンター

4 実施予定日時 令和3年11月30日（火） 18:30～20:00

5 実施場所 オンライン

6 実施報告 当日参加者からは以下のような声をいただいた。
「パレスチナのことは授業で勉強していたが、現地の人々の目線から話が聞けて新鮮だった。日本からでも関わる方法があるのだと思った。今日体験したパレスチナ刺繍は、日本の中で国際協力を身近にするツールとして様々な可能性がありそうだと思う」

「デザインがかわいい、というところからパレスチナ刺繍、パレスチナについて興味をもつようになった。今日現地話を聞けて、また実際に刺繍を体験することで、現地の人々のことが身近になったように感じた。これからも大学生グループで活動을続けて、広めていきたい」

7 写真

 企画の最初に当制度の説明を実施。	 刺繍ワークショップでは参加者にパレスチナ刺繍を実践していただいた。
---	---

(写真1)

(写真2)

以上

令和3年12月7日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
開発教育協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：SDGsよこはまCITY(秋)
企画実施概要：神奈川県内を中心に活動するNGOや国際協力、開発教育や国際理解教育に関連する団体が一堂に会する「SDGsよこはまCITY」において、開発教育ワークショップを実施した。また、参加者からの開発教育・国際協力に関する相談対応を行った。

2 出張者氏名

岩岡由季子

3 依頼元／主催団体名

よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会、SDGsよこはまCITYプロジェクト
※構成団体：横浜NGOネットワーク／JICA横浜／横浜市国際交流協会／神奈川大学

4 実施予定日時

2021年11月20日(土) 13時～16時

5 実施場所

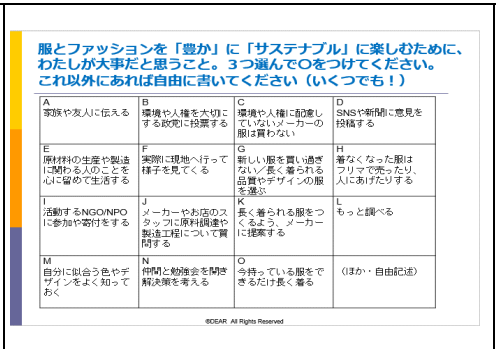
オンライン

6 実施報告

DEARが現在作成している教材『服・ファッション(仮題)』をテーマにワークショップを実施した。高校生から大学生、社会人(学校教員、会社員、NGO関係者など)まで8名の参加があり、服をめぐる様々な問題をカードを並び替えたり、映像を見たりして学んだ。参加者からは「ファッションと環境問題は興味はあったが、ふれる機会がなかなかなくて、大変勉強になった」「服を大事に着ること、生産者や環境の負荷を考えること。ファッション業界と消費者が共に変わる必要がある」「教材を購入して実践してみたい」といった声が聞かれた。

参加者からの相談コーナーも設け、学校教員の方より参加型学習の進め方や、オンラインでの開発教育ワークショップの実施方法などに関して相談があった。

7 写真

	
スライド資料(抜粋)	スライド資料(抜粋)

(写真1)

(写真2)

以上

令和3年12月2日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
アイキャン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 国士館大学政治行政学科の学生に対する講演

企画実施概要： ①企画内容
同学科の「国際機構論」の講義において「国際社会におけるNGOの役割」というテーマで講演を行った。

②対象者および参加人数
大学3・4年生(1・2年生聴講生含む) 約80名

2 出張者氏名 西坂 幸

3 依頼元／主催団体名 国士館大学 政経学部 政治行政学科 上村信幸 教授

4 実施予定日時 令和3年11月12日 (金) 16時25分 ～ 17時55分

5 実施場所 国士館大学 (住所:東京都世田谷区):オンラインでの実施

6 実施報告 国際社会におけるNGOの役割について話すとともに、より具体的なイメージを持っていただけるように、当団体が社会課題に対してどのようなアプローチをしているのか、フィリピンでの活動を例に挙げてお話した。参加した学生の中には、フェアトレード販売に携わった経験があったり、スタディツアーに参加したことのある学生もあり、質問内容からも高い関心が伺えた。このように社会貢献活動に取り組む学生が多いなか、地球規模の課題、及びNGOの役割に対する理解を促すことができたとともに、学生のキャリア形成における視野を広げ、国際社会への貢献意識をより一層醸成することができた。

7 写真



講演では、NGOの活動についてだけでなく、課題に対して身近にできることについて話すことで、課題を自分事として捉えてもらえるよう工夫した。

(写真1)



質疑応答では、フィリピンにおける協同組合の運営全般や、政府の統制について等、厳しい生活の背景に眼を向けた質問も多く見受けられた。

(写真2)

以上

令和3年11月24日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

Friendship Day in SANDAにおけるブース出展

企画実施概要:

①実施内容

三田市国際交流協会主催のFriendship Day in SANDAにてブース出展を行う。

②対象者および参加人数

Friendship Day in SANDA来場者、約30名

2 出張者氏名

中村 朱里

3 依頼元／主催団体名

三田市国際交流協会

4 実施日時

令和3年11月23日（火）

13:00-15:00

5 実施場所

キッピーモール6階、まちづくり協働センター
(兵庫県三田市)

6 実施報告

三田市の国際交流イベントにてブース出展を行った。コロナ禍の中での開催のため飲食物の販売ができない等の制限があり、イベント全体の来場者数は、コロナ前と比較して大きく減少しているようであった。そのため、ブースでの相談件数も少な目であったが、相談者からは普段、「三田市では国際協力NGOの活動に触れる機会がない」「今後、三田市で国際協力ボランティアをしたい」などの相談があり、今回ブース出展できたことは意義があったと思われる。

また、参加者は国際理解に関心の高い方たちだったので、国際協力NGOによる多文化共生の取組についても関心が高く、NGOの新たな国内事業の展開等について説明を行う機会があった。相談員制度やNGOの活動を知っていただくために、今後も地方でのイベントに参加していきたいと感じた。

7 写真



ブースの様子①



相談対応の様子②

(写真1)

(写真2)

以上

令和3年 12月 1日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

育英西中学校・高等学校での国際協力の講義

企画実施概要:

①企画内容: 高等学校の授業の一環として、国際協力の実態について講義を行った。特に、現在の軍事クーデター状況下におけるミャンマーの現状や取り組みについて、在日ミャンマー人女性をゲストに具体例を示しながら講演を行った。

②対象者および参加人数: 高校1年生 43名

2 出張者氏名

山本 健太郎

3 依頼元／主催団体名

学校法人奈良育英学園 育英西中学校・高等学校

4 実施予定日時

令和3年11月30日 (木) 8:50 ~ 10:25

5 実施場所

奈良育英西中学校・高等学校(奈良市三松4-637-1)

6 実施報告

最初に、NGO相談員制度の説明をし、電話やメールなどでも質問に対応できることを伝えた。

続いて軍事クーデター下における現在のミャンマー情勢について、国レベル、NGOレベルでの活動などを紹介しながら概要を話した。また、授業の一環で社会貢献について学んでおり、ミャンマーの現状や課題、などについて話を聞きたいとのことであったので、ゲストスピーカーである在日ミャンマー人女性を中心とし、各地域の現状、解決のための取り組みについてお話をした。

最後に質疑応答の時間をとり、生徒からは「クーデター下のミャンマーでの新型コロナウイルスワクチン接種率は?」、「軍隊に入る人はどのような人なのか?」、「軍隊の中に女性はいるのか?」などの質問があった。

7 写真



気軽にNGO相談員を活用してもらえるよう、チラシは教室入り口付近に設置した。

(写真1)



講演の一部、在日ミャンマー留学生からのメッセージを動画で流している様子。国際情勢に関心のある高校生たちが真剣に聞いてくれた。

(写真2)

以上

令和3年12月3日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
テラ・ルネッサンス

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 第9回清水寺で世界を語る

企画実施概要： ①実施内容
国際協力に関するイベントを清水寺境内で実施する。NGOによる活動紹介や物品販売のブースの中に相談員ブースを設置し、相談対応を行う。
②対象者および参加人数
同イベント参加者 37名の対応

2 出張者氏名 栗田佳典、小田起世和

3 依頼元／主催団体名 清水寺で世界を語る実行委員会

4 実施予定日時 令和3年11月3日（水） 8:30 ～ 17:00

5 実施場所 清水寺境内 京都府京都市東山区清水1丁目294

6 実施報告 清水寺境内で行われたイベント「清水寺で世界を語る」にて相談員ブースを出展した。事前にご連絡があった方や、当日来場者からの質問を受けて、助言を行った。相談を受けた方からの感想は以下のとおりである。
「SDGsという言葉は聞いてはいたけど、あまりよく知らなかったもので、今日のイベントや相談を通じて、SDGsを理解することができた」「国際協力の進路について相談でき、自分の今後のことをより深く考えようと思った」
「ODAの仕組みや日本の国際協力について、知ることができ、興味を持った」

7 写真



相談対応の様子



拝観者へ相談員制度の説明の様子

(写真1)

(写真2)

以上

令和3年12月2日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
ピースウインズ・ジャパン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 東京都立国際高等学校における講演

企画実施概要： ①実施内容：同校3年生全員を対象にイラク北部クルド人自治区についての紹介と当団体が当地を拠点に実施している緊急人道・復興・開発支援について「異文化理解」の授業で講演を行った。

②対象者および参加人数

対象者：同校3年生全員

参加人数：総人数229名（内訳、3年生生徒225名および教員4名）

2 出張者氏名 牛田真也子

3 依頼元／主催団体名 東京都立国際高等学校 外国語（英語）主任教諭 木村明子先生

4 実施日時 令和3年11月16日（火）13時15分～15時35分（5限目～7限目）

5 実施場所 東京都立国際高等学校（東京都目黒区駒場2-19-59）

6 実施報告

東京都立国際高等学校3年生全員（計6クラス）対象に毎週行われている「異文化理解」の授業で、2クラスごと計6クラスの生徒225名および教員4名に後述の内容で講演を行った。

1996年2月の当団体設立以降、継続して支援活動を展開しているイラク北部クルド人自治区の歴史や人びとの生活、クルド人自治区の課題を紹介した上で、クルド人自治区を拠点に当団体が行ってきた多岐に渡る緊急人道・復興・開発支援について動画や写真も見せながら講演をした。また、クルド人自治区には未だ多くの難民・国内避難民が避難生活を余儀なくされており、現地政府だけでは到底対応することができない膨大なニーズが山積しているため、国際社会からの継続的なサポートが必要であることや、当団体として現地のニーズへどう対応していくかなど支援内容を決める際や支援活動を行う上で大切にしていることについても話をした。

本講演を通して、当団体のイラク北部での支援活動事例を知ったことで、東京都立国際高等学校3年生が国際協力に対する理解の一助となったと感じている。

7 写真

（写真1）



講演の様子①

（写真2）



講演の様子②

以上

令和3年12月2日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 高知県立高知小津高等学校(PTA国際委員会)

企画実施概要： 国際理解推進のために、SDGsやODAを含めた国際協力の動向についてや、JICA海外協力隊の取り組み等を交えて紹介してほしいと依頼があったことから、国際協力やODA・JICAの取り組みについて講演を行った。また、高知の国際協力に関わるNGOについての情報提供とNGO相談員事業の広報を行い、高校生の国際協力やODAについて興味を持ってもらうきっかけにつながった。

2 出張者氏名 菅 未帆

3 依頼元／主催団体名 高知県立高知小津高等学校(PTA国際委員会)

4 実施日時 令和3年11月13日 (土) 13:30～15:00

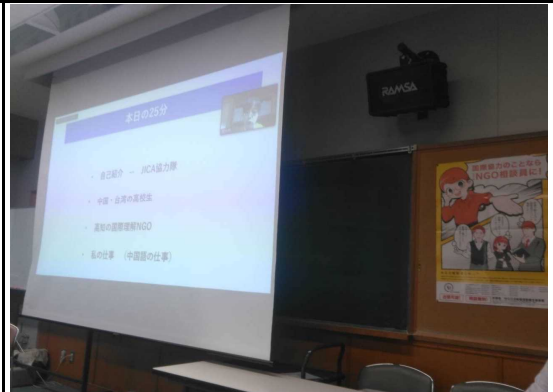
5 実施場所 オンラインでの実施

6 実施報告 参加者からは以下のような感想を得られた。
①JICA海外協力隊の活動に興味を持った。
②色々な話が聞けて良かった。関心が高まった。
③海外への興味が増した。行ける機会があったらぜひ行ってみたいと思った。

7 写真



講義全体の様子



講義内容について説明している様子

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名： 沖縄移民・世界のウチナーンチュから考える国際貢献
- 企画実施概要： ①実施内容 沖縄移民の歴史・世界のウチナーンチュについて解説した後、現在のネットワークを通じた国際的な社会貢献について考えるグループワークを行う
- ②対象者および参加人数 東京外国語大学 学生3～4年30名

2 出張者氏名

佐々木綾菜、外山岩郎
オンライン講座のため、操作補佐として2名体制

3 依頼元／主催団体名

東京外国語大学

4 実施予定日時

令和3年11月10日（水） 8：30～10：00

5 実施場所

オンラインZoom会議室

6 実施報告

- ・国際理解・多文化理解について、これまで課題やネガティブで重いテーマだと感じていたが、世界のウチナーンチュの方々が自信のルーツやアイデンティティを大切に、明るくポジティブに生きている様子をみて希望を感じた。
- ・世界中で人の移動が活発に行われているが、沖縄移民の歴史は、移民先での母語言語や文化教育の素晴らしい例だと感じた。
- ・セリフを考えるワークでは、日系人の女の子が日本の文化をまったく知らないのだと予想したが、実際は真逆だった。無意識のうちに自分にも凝り固まった固定概念があるのだと気づいた。

7 写真（撮影NGのため、使用したスライドを掲載）

ワーク① リリアンは、他にもいろいろなことを体験しました。 ①リリアンとおばさんのセリフを、考えてみよう！ ②リリアンとおばさんになりきって、セリフを発表しよう！ ※3、4人1グループ 8分（おとな時間）	
ワークショップ時のスライド	学生が3つのセリフのシーンを考えた

（写真1）

（写真2）

以上